

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
総合業界研究 1											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	下條慧			実務経験	有	職種	作編曲家				
担当教員紹介											
日本工学院専門学校サウンドクリエイターコースを卒業後、アーティストへの楽曲提供や映像音楽の制作など歌モノからインストまで多ジャンルに渡り制作を行ってきた経歴がある。											
授業概要											
社会から、誰かから求められるあらゆる音楽に対応するため、様々な条件や企画を提示しそれに沿った音楽制作を行っていく。 音楽制作の受注・発注の仕組みを理解し、実際の制作現場で行われるコミュニケーション、ファイルの扱い方、データのやりとり等に必要なスキルを身につけ、講師(発注サイド)と学生(受注サイド)として制作現場と同様にシミュレーションを行う。											
到達目標											
実践的に修得情報を稼働させて得意領域・不得意領域を早くに見つけ、双方のスキルアップを目指す。 さらに曖昧な言葉で伝えられた物をどのように形にするのか、修正(リメイク)をどのように行なっていくのか、やりたい事とやるべき事を判断する思考を身につける。クリエイターとして仕事をするために必要な音楽的側面と人間的側面の能力の認識を持つ。											
授業方法											
制作現場と同様にを前提とした課題提示、プレゼンテーション、データアップロード等も授業を通して行う。 課題による音楽的手法やパラメーターに関する情報、使用されるメディアや媒体に関する情報、 発注サイド・受注サイドでやりとりをしていく中で起こりうるトラブルやその対応といった具体的なケースもその都度解説していく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、昨今の音楽業界での既得権益層から認められなければ企業案件は取りにくい、との観点で、指示された物が作れるか、好きなジャンルでない物の発注にも期限内に納品できるかなどの中身の部分から始まり、外側の、礼節・マナー等についても評価を行う。理由のない遅刻や欠席は、それらが如何に致命的であるかを柔らかに指摘する。授業に出席するだけでなく、コミュニケーション能力を高める為、発注元を意識した学生同士の評価の機会を多く取り、双方向からの授業展開で他人からの情報も多く吸収し、技能の向上に努める事を目標とする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	発注と受注の仕組みを理解する										
第2回	前回の振り返り。コミュニケーションの仕方、データの受け渡し、メールの書き方。第一課題の告示										
第3回	第1課題 第1回プレゼンテーション。データの受け渡しを確認する										
第4回	修正のプレゼン、必要に応じて個別のフォロー、学生同士の教え合いも推進										
第5回	さらに修正したプレゼンを行い内容に対しての添削を行う										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
総合業界研究 1	
第6回	第1課題の最終発表、第2課題の告示
第7回	第2課題 第1回プレゼンテーション。データの受け渡しを確認する
第8回	修正のプレゼン、必要に応じて個別のフォロー、学生同士の教え合いも推進
第9回	ここまでの振り返り、補足事項の説明。 RD用楽曲のチェック
第10回	RD楽曲の最終チェック 修正作業を行う
第11回	修正のプレゼン、必要に応じて個別のフォロー、学生同士の教え合いも推進
第12回	さらに修正したプレゼンを行い内容に対しての添削を行う
第13回	楽曲視聴を行い各自の修正点を確認し補正作業を行う
第14回	第2課題の最終発表、第3課題の告示
第15回	第3課題 第1回プレゼンテーション。データの受け渡しを確認する